

観察研究のお知らせ

研究課題名

早期肺癌患者の体幹部定位放射線治療後の非肺癌死予測システムの確立

研究の目的

臨床病期Ⅰ期の肺癌と診断された患者さんが根治を目指して治療を受けようとするとき、現在の標準治療は手術と定位放射線治療(ピンポイント照射)です。効果、副作用を含めた治療後臨床経過の特徴は両者で違いがあります。どちらの治療法が適しているかは個々の患者さんの状態や希望をもとに医師が提示して最終的に患者さんに選択してもらっています。大まかな傾向としては高齢、肺の機能が不十分、他に大きな病気を持っている、という特徴をもった患者さんで定位放射線治療を選択されることが多いです。しかしどのような特徴を持った患者さんに定位放射線治療が適しているか、ということに関してはよくわかっていません。そのためにはそれぞれの治療法の、癌に対する効果だけでなく、患者さんの生命予後全体に対する影響の考察が必要です。よって今回、これまで当科で治療した患者さんのデータから、「定位放射線治療をした後に肺癌以外の原因で寿命を迎える可能性がどの程度あるのか」を簡易的に予測するためのシステムを作ります。さらに大船中央病院とも協力して、その予測システムが妥当なものかを検証します。この研究によって得られた予測システムは、今後新しい早期肺癌患者さんが治療法を決める際に参照できる有用なデータとなります。

研究の対象

京都大学医学部附属病院放射線治療科で1998年7月から2015年12月にかけて、Ⅰ期肺癌と診断されて体幹部放射線治療を受けた患者さんのなかで治療開始時年齢が65歳以上の方が対象です。全体で353名の予定です。

研究期間

研究実施期間: 倫理審査承認日から2年

研究の方法

該当症例につき、主に以下の情報をカルテより抽出します。

- ・ 性別、年齢、ECOG-PS、身長、体重、併存疾患(糖尿病、悪性腫瘍、心不全など)
- ・ 組織型、腫瘍径、Tstage
- ・ 生存データ、(非肺癌死の場合)死因

本研究のために患者さんに新たな検査をお願いすることはありません。

なお、本研究は、京都大学大学院医学研究科・医学部および医学部附属病院医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を得て実施されています。

研究成果発表

学会や学術誌等で報告を行います。個人名や個人情報公表されることはありません。

お願い

上記対象条件に該当する患者さんにつきましては、カルテ記載事項や画像など必要なデータを研究に利用させていただくことをご了承ください。

本研究の詳細を知りたい場合には、研究計画書および研究方法に関する資料を入手・閲覧が可能ですので、下記までお問い合わせください。ただし、知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。他の研究対象者患者さんの個人情報に関するお問い合わせはできません。

なお、本研究への診療情報の利用を望まれない場合も、下記までご連絡ください。

研究責任者

松尾 幸憲 京都大学医学部附属病院 放射線治療科 准教授

共同研究機関研究責任者

武田 篤也 大船中央病院 放射線治療センター センター長

研究事務局

京都大学医学部附属病院 放射線治療科

松尾 幸憲

電話:075-751-3762、FAX:075-771-9749

病院相談窓口

京都大学医学部附属病院 相談支援センター

(Tel):075-751-4748

(E-mail): ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp